

ワッ!RKK

Merry Christmas



夕方いちばん

月-金曜  
夕方4時45分

司会: 木村和也(月-金) / 長船なお美(月-水) / 野満美子(木-金)

夕方いちばん  
NEWS

月-金曜  
夕方6時16分

WEEKDAY EVENING

キャスター: 宮脇利充 / 岡村清香 / 佐々木慎介

RKK  
熊本放送  
rkk.jp

熊本県民第九の会 第25回記念  
第49回 熊本県芸術文化祭参加

ベートーヴェン

第九

第25回

平成19年12月23日(日)午後6時15分

熊本県立劇場コンサートホール

主催 / 熊本県民第九の会・熊本県文化協会

助成 / (財)熊本県立劇場

後援 / NHK熊本放送局・熊本日日新聞社・RKK・FM熊本・FM791



熊本県知事

潮谷 義子



熊本県立劇場館長

葉山 完治



熊本県文化協会会長

小堀 富夫



熊本県民第九の会実行委員長

草刈 秀克

第25回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

熊本県民手作りの演奏会である「第九」は、昭和57年に熊本県立劇場開館の柿落とし事業として初演されました。爾来四半世紀にわたって開催されており、年の瀬の熊本に欠かせない風物詩としてすっかり定着しているところです。熊本県民第九の会並びに関係の皆様方の並々な熱意と御尽力に対して、心から敬意を表する次第です。

今回、指揮者には新進の才能溢れる山田和樹さん、ソリストに本県出身の佐々木典子さんをはじめ第一線で御活躍中の方々をお迎えして開催されます。約300名の県民合唱団の皆様も、8月の結団式から和やかな中にも厳しい練習を積み重ねてこられました。本日はその成果を十分に発揮され、熊本交響楽団の素晴らしい演奏にのせて、新しき年を迎える歓喜の歌声をホール一杯に響かせていただくことを期待いたします。

「世界中の全ての人々が垣根を取りはらい、ともに手を取り合おう」というシラーの歌詞に込められた平和への想いは、地域や時代を越えた人類共通の願いです。御出演の皆様による「第九」が、会場のみならず全ての県民の方々に希望と感動を与え、人と人の心をつなぐ素晴らしいメッセージとなることを心から願っております。

最後に、本日の演奏会の御盛会と皆様方のますますの御活躍、御発展をお祈りいたしまして、お祝いのごことばといたします。

第25回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催おめでとうございます。

今年、熊本県立劇場は開館25周年を迎えました。この演奏会は県劇の落成を祝って県民手作りの音楽祭としてスタートし、その後、熊本の年末を彩る催しとして定着しています。この「第九」は、県立劇場の数ある催しの中でも、四半世紀に亘って、一度も休むことなく続けられている唯一の催しです。県立劇場としても、開館以来、共に歩み育ててきたこの演奏会を大変大事なものと思っています。

この間、演奏会に関わってきた熊本交響楽団の皆様は、延べ2500人、公募で参加された合唱団の方々は、実に、延べ7500人に上り、合わせて1万人余がステージに上がったこととなります。

将に、「継続は力なり」。この「第九」に結集したパワーこそが、熊本の音楽文化を支えてきたといっても間違いではないと思います。

今年は、2年連続でタクトを振る山田和樹さんの指揮のもと、オーケストラと合唱が見事に調和して、“私達の心からの喜び”を高らかに歌い、響かせ合って頂けるものと期待しています。

また、今回の演奏会では、10年振りに合唱団のみの曲目発表があるということで、楽しみが加わります。

本日のコンサートの成功と、皆様の今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

「熊本県民第九の会」の演奏会も、今年で25回となりました。年末の恒例の行事として定着したこの演奏会は、熊本県立劇場の落成を記念して始まりました。

県民手作りの演奏会として音楽関係者を中心に「実行委員会」がつくられ、以来多くの苦労もあつたようですが、それを乗り越え今日にいたっています。「実行委員会」の方々をはじめ御支援を頂きました方々に深い敬意を表します。

演奏は最初から熊本交響楽団が担当されていますが、合唱は一般から公募した「熊本県民第九の会合唱団」が担当されており、300名ちかい合唱団の方々は年々少しずつ入れ替わっていかれますが、今迄に7,500人ちかい方々が県立劇場で高らかに「歓喜の歌」を歌っておられます。

熊響も、合唱団も25回完全出場という方もおられますし、20回以上もおられます。親子二代にわたって出場者もおられますし、25年の歴史の重さを今感じています。

勿論、毎回熱心に演奏会を聞いて頂く方がおられるので、この演奏会はなりたっています。25回で延べ4万人以上になると思います。御支援を頂いた方々にも感謝いたします。

今年の指揮は昨年につづき若手指揮者のホープ、山田和樹さんを迎えました。ソリストには佐々木典子（ソプラノ）・加納里美（アルト）・井ノ上了吏（テノール）・佐野正一（バリトン）の方々が出場されます。

今年も素晴らしい演奏会になる事でしょう。

今晚は、年の瀬のお忙しい中ご来場頂き誠に有難うございます。お陰様で25回目の演奏会を開催する運びとなりました。そしてこのひとときを皆様と共有できますことを心から嬉しく感謝申し上げます。これも一重にご来場頂く皆様のご支援ご協力の賜ものと御礼申し上げます。

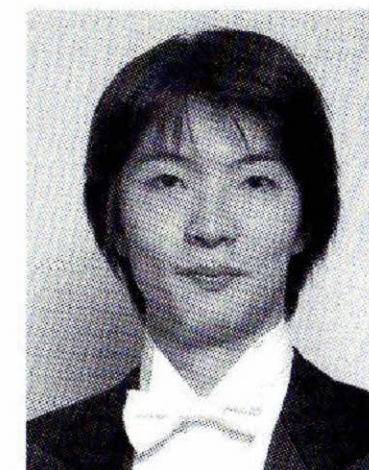
県立劇場落成の柿落しに第九の演奏をとのことと県下の合唱愛好者に呼びかけ第九が演奏されその素晴らしさに各方面の大勢の方々から継続の声があり、その声をまとめ県民第九の会として道筋をつけて頂いた初代実行委員長有馬俊一先生、沖律正巳先生、藤枝昭俊先生他、当時の実行委員の方々のご尽力も忘れてはなりません。又共に練習しステージに立った仲間にも多数鬼籍に入られた方がおられます。今日の演奏がご尽力頂いた天国の皆様が届きます様に!!そして第九の会に関わって下さる全ての皆様に感謝の気持ちをこめて会場の皆様に感動と活力を持ち帰って頂けたらと願っております。幸い今年も山田和樹先生のタクトです。ソリストには熊本はもとより日本が誇るソプラノの佐々木典子さん、佐々木さんが最も信頼する加納里美さん、井ノ上了吏さん、佐野正一さんをお招きしております。前座曲は久しぶりに合唱団が努めます。どうか最後までゆっくりお楽しみ下さい。新しい年が皆様にとって素晴らしい年であります様に。

指揮 山田和樹  
独唱 ソプラノ 佐々木典子  
アルト 加納里美  
テノール 井ノ上了吏  
バリトン 佐野正一

合唱 熊本県民第九の会合唱団

合唱指揮 平和孝嗣  
工藤勇壹  
松岡 聡  
ピアノ 古閑恵美  
星子真澄  
林原ゆり  
川辺里美  
隈部 文

管弦楽 熊本交響楽団



指揮 山田和樹 (やまだ かずき・Kazuki YAMADA)

1979年、神奈川県秦野市生まれ。幼少の頃より木下式音感教育を受ける。  
2001年、東京芸術大学音楽学部指揮科卒業。安宅賞受賞。指揮法を小林研一郎、松尾葉子の両氏に師事。  
2002年には、ザルツブルグ・モーツァルテウム・サマーアカデミーに参加、ゲルハルト・マルクソン氏に指導を受ける。  
これまでに、オーケストラでは、ブルガリアVARNAフィル、東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、セントラル愛知交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、瀬戸フィルハーモニー交響楽団(ミュージックアドバイザー)を指揮。また、千葉県少年少女オーケストラなど全国約50団体以上のアマチュアオーケストラの指揮指導にも力を注いでいる。  
大学在学中に芸大生有志オーケストラ「TOMATOフィルハーモニー管弦楽団」(2005年11月、横浜シンフォニエッタに改称)を結成し、音楽監督に就任。  
レパートリーは弱冠22歳にしてベートーヴェン交響曲全曲演奏を達成した他、シューマン、ブラームス、ボロディンの交響曲全曲演奏も達成しており、幅広いレパートリーを持つ。  
また、若手作曲家とのコラボレーション、リハーサル付きの演奏会や若手音楽家コンチエルトデビューコンサートなど自らプロデュースするコンサートも数多く、精力的に活動している。  
合唱の分野では、2005年4月、東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンスに史上最年少で就任、同団第203・209回定期演奏会への登壇も果たし、「音楽の友」「音楽現代」両誌などで絶賛された。  
「スケールの大きな、今時珍しいほどのロマンテックな音楽をつくる。明晰で表現意欲も旺盛(音楽現代誌)」と評された。  
2006年4月より1年間、くらしき作陽大学非常勤講師を務めた。  
現在、横浜シンフォニエッタ音楽監督、瀬戸フィルハーモニー交響楽団ミュージックアドバイザー、東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンス。  
今後の活躍が最も期待されている指揮者の一人である。



平成18年12月24日(日) 《第24回熊本県民第九の会演奏会(指揮=山田和樹)》から

佐々木 典子 (ささき のりこ)

ソプラノ



武蔵野音楽大学卒業後、ザルツブルグモーツァルト音楽大学オペラ科を首席で修了。1984年ウィーン国立歌劇場オペラ研修所に所属、'86年同歌劇場にソリストとして本契約。ウィーンはじめ欧州各地の劇場でオペラの他コンサートにも出演。'86、'89年ウィーン国立歌劇場日本公演、'87、'88年ザルツブルグ音楽祭「モーゼとアロン」。'89年「エレクトラ」、'92年「影のない女」、'89年日本公演ガラコンサート（アバド指揮）に出演。日本に居を移してからは、2000年二期会「魔笛」パミーナをはじめ、'01年「こうもり」ロザリンデ、'02年「フィガロの結婚」伯爵夫人（'06年の再演にも出演）、「ニュルンベルクのマイスタージンガー」エーファ、'03年「ばらの騎士」元帥夫人等、主役には不可欠な存在として、その地位を確立。最近では'04年二期会・新国共催「鳴神」雲の絶間姫、「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・エルヴィーラ、'05年「椿姫」ヴィオレッタなどで絶賛を博している。本年2月には日本初演となる東京二期会「ダフネ」に主演。2008年、2月びわ湖ホール、ならびに3月神奈川県民ホール、「ばらの騎士」元帥夫人で出演予定。卓抜した音楽性と表現力は、世界的巨匠をはじめとする共演者からも常に尊敬の対象とされている。'90年熊本市女性賞を授与。'00年第2回ホテルオークラ音楽賞受賞。二期会会員。東京芸術大学准教授。

加納 里美 (かのう さとみ)

アルト



東京音楽大学卒業。同研究生オペラコース修了。成田絵智子、故・福沢アクリヴィ、故・滝沢三重子の諸氏に師事。1986年、文化庁芸術家国内研修員。関西日仏音楽コンクール第1位入賞。同年、文化放送音楽賞受賞。第4回日仏音楽コンクール第2位入賞。第57回日本音楽コンクール声楽部門第3位入賞（1位なし）。'86年、二期会公演「ワルキューレ」のシュヴェルトライテでオペラデビュー。同役は'96年の大野和士指揮および2001年の飯森泰次郎指揮による公演でも演じ、高い評価を得た。以後「椿姫」のアンニーナ、「魔笛」の侍女、「ヘンゼルとグレーテル」の魔女、「アイダ」（演奏会形式）の王女アムネリス等に出演。表情豊かな張りのある声で好評を博した。'97年東フィルオペラコンチェルトシリーズ、大野和士指揮「ピーター・グライムズ」、「イエヌーフア」に出演。新国立劇場へは'99年以降、「罪と罰」「イル・トロヴァトーレ」「ヘンゼルとグレーテル」「シャーロックホームズの事件簿」「ねじの回転」「外套」などに出演。2005年8月には、日本初演日生劇場オペラ「アラジンと魔法のランプ」に出演。また、ベートーベン「第九」、マーラー交響曲第2番「復活」、第8番「千人の交響曲」、ヴェルディ「レクイエム」などのソリストとして出演。現在、東京音楽大学准教授、二期会会員。

井ノ上 了更 (いのうえ りょうじ)

テノール



国立音楽大学卒業。  
東京文化会館推薦オーディション合格。  
日伊コンクール入賞  
イタリア音楽コンクール金賞、2年連続でテノール大賞受賞。  
日本音楽コンクール入賞、東京国際コンクール入賞及び海外留学助成金を受ける。  
91年よりイタリアへ留学、アリーゴ＝ポーラ、ジャチント＝ブランデッリ、ジュディター＝パリス、エウジェニオ＝フルッコティの各氏の下で研鑽を積み傍らイタリア各地でコンサートにも多数出演、パドヴァ国際コンクール、パヴィア国際コンクール等に入賞。  
95年に帰国後は、二期会公演「ドン・ジョバンニ」のドン・オッターヴィオ、「コシ・ファン・トゥッテ」のフェランド、「真夏の夜の夢」のライサンダー、「ファルスタッフ」のフェントン、二期会創立50周年記念公演「こうもり」のアルフレードなどテノールの重要な役柄で常に活躍好評を博す、2003年9月には「蝶々夫人」ピンカートン役にて主役としての存在感のある美声と演技で聴衆を魅了した。  
新国立劇場主催オペラ鑑賞教室で「トスカ」のカヴァラドッシ、新国立劇場公演「サロメ」「アラベラ」「忠臣蔵」に出演、2004年には「俊寛」「サロメ」「マクベス」に出演し好評を博す。  
東京音楽大学客員助教授、平成音楽大学客員助教授、国立音楽大学非常勤講師、二期会オペラスタジオ講師、二期会会員、日本演奏連盟会員。

佐野 正一 (さの まさかず)

バリトン



東京芸術大学声楽科を卒業。卒業時、宮中の桃華楽堂において御前演奏を行う。同大学院修了。在学中、芸大定期ヘンデル「メサイア」、ブラームス「ドイツレクイエム」及び、台東区主催ベートーヴェン「第九」のソリストを務める。昭和63年度東京文化会館推薦音楽会声楽部門に合格。同演奏会及び新宿文化センター主催「フレッシュコンサート」に出演する。第27回日伊音楽コンクール第2位入賞。第7回日仏音楽コンクール第2位入賞。第57回及び第59回日本音楽コンクール入賞。第4回音楽堂日本歌曲コンクール奨励賞受賞。オペラにおいては、小澤征爾指揮によるオペラ塾公演「フィガロの結婚」（演奏会形式）のフィガロ、宮本亜門演出「コズィ・ファン・トゥッテ」のグリエルモ、黛敏郎作曲「金閣寺」（日本初演）の鶴川、ゲルギエフ指揮による日フィル定期「サロメ」、琵琶湖ホールでの「ドン・カルロ」、フォーレ唯一のオペラ「ペネロペ」（日本初演）、日生40周年記念「ルル」など、話題になったオペラにも出演。1996年～2000年の間に5回、ニューヨークのカーネギーホール、2002年2003年2月には、ウィーンの楽友協会、その後、ブラハのメタナホール、コブレンツ、ドレスデン、ブタペストのリスト音楽ホールにて「第九」のソリストとして出演した。また、暮れにフォーシーズンズホテルでのディナーコンサートは8年目を迎えている。NHK土曜リサイタル及び名曲リサイタル出演。現在、尚美学園大学、聖徳大学非常勤講師、日伊音楽協会、日本フォーレ協会、日本演奏連盟、日本声楽アカデミー、東京グレース会、二期会会員。

## 1. 混声合唱のための「うた」から

武満 徹

1. 島へ
2. 死んだ男の残したものは
3. さくら

## 2. 交響曲第9番 二短調 作品125「合唱付き」

ベートーヴェン

- 第1楽章 Allegro ma non troppo, un poco maestoso  
第2楽章 Molto vivace  
第3楽章 Adagio molto e cantabile  
第4楽章 FINALE

### 武満徹の作品紹介 WORK INTRODUCTION

武満徹という作曲家に出会う機会はといえば、多くが中学校の音楽の授業で聴く「ノヴェンバー・ステップス」という琵琶と尺八を伴うオーケストラの作品からではないだろうか。現代音楽の難解な音楽を作曲した人という印象を持つ人も多いだろう。

実は、武満徹は様々なジャンルの音楽を作曲している。ピアノやオーケストラのためのコンサート用作品ばかりでなく、映画やテレビの音楽も多い。「筑紫哲世のニュース23」のエンディングに使われた「翼」（風よ、雲よ、光よ、夢をはこぶ翼、遥かなる空に描く、希望という字を……）という歌も彼の作品である。

武満徹は独唱曲として書いた歌のいくつかを混声合唱のための「うた」に編曲した。本日はその作品の中から3曲を演奏する。合唱曲になると、もともと一人で歌われるはずの歌が複数の声で表現される。単旋律を複数の声で紡いで

いくことにより、ていねいに扱われ、優雅な雰囲気醸し出してくる。

武満徹の合唱曲を特徴づけているのは、声部間のホモリズムミック（全声部がリズム的に同じであること）な音楽の形であり、複数の声部がいっしょに動いて音楽が展開していく。全声部が一つの音楽を歌っていることにより、言葉の音よりも詩が喚起するもの、全体の声の響きが主要な要素になっている。

また、メロディはしっかり調性を保っているのに、ハーモニーはドミソの三和音に飽きたらず、6や7のコード（ドミソにラの音を加えたC6、シの音を加えたC7）の音がジャジーな雰囲気でもいかにもおしゃれな音楽になっている。歌う側にとってはとても高度なテクニックが要求されるが、音の重なりがきれいに決まったときの快感は歌った人にしか味わえない至福の瞬間である。

### 「島へ」

見知らぬ人よ あなたは何処にいますか  
めぐりあい信じていますか  
ガラスの回転扉をひとつまわったら  
あなたの胸にぶつかるでしょうか  
都会の海に漂い  
島をさがしつづけています

彷徨（さすらう）ひとよ あなたは歩きつづけますか  
繋ぐ掌と掌もとめていますか  
心の水平線さえいつか見つけたら  
あなたとわたし出逢えるでしょうか  
結ばれ睡る緑の  
島をさがしつづけています

詩：井沢 満

#### （曲目解説）

8分の6拍子の「死んだ男の残したものは」と同じように、複合拍子の8分の12拍子で書かれたこの曲は、静かに語りかけるように流れていく。そして同度音と順次進行で歌っては、軽やかに飛翔する。

「島へ」というどこことなくのどかなタイトルに反して、都会の孤独を歌った詩だが、合唱では、それに共感しつつ「そんなに深刻にならなくてもいつかはめぐり逢えるよ」と語りかけてくるようだ。

### 「死んだ男の残したものは」

死んだ男の残したものは  
一人の妻と一人の子供  
他には何も残さなかった  
墓石ひとつ残さなかった

死んだ女の残したものは  
しおれた花と一人の子供  
他には何も残さなかった  
着物一枚残さなかった

死んだ子供の残したものは  
ねじれた足とかわいた涙  
他には何も残さなかった  
思い出一つ残さなかった

死んだ兵士の残したものは  
こわれた銃とゆがんだ地球  
他には何も残さなかった  
平和ひとつ残せなかった

死んだ彼らの残したものは  
生きてる私 生きてるあなた  
他には誰も残っていない  
他には誰も残っていない

死んだ歴史の残したものは  
輝く今日とまた来る明日  
他には何も残っていない  
他には何も残っていない

詩：谷川俊太郎

#### （曲目解説）

「ベトナムの平和を願う市民の集会」のために書かれ、友竹正則によって初演された。

谷川俊太郎の深刻な詩に比べて、8分の6拍子のシチリアーノ風のリズムは、詩の内容に少しそぐわない感じがするが、舞曲のリズムをすり抜けて、二小節ごとに、ため息がはき出されるように、息の短いフレーズが歌い継がれていく。

### 「さくら」

さくら さくら  
やよいの空は 見渡すかぎり  
霞か雲か 匂いぞいずる  
いざや いざや 見に行かむ

日本古謡

#### （曲目解説）

冒頭と最後のハーモニー、光が徐々に差してきて閃光になるまぶしい響きが見事に実現され、武満独特のハーモニーを織りなしている。

そのハーモニーは、美しい音楽となり、日本人の心の琴線にこだまして雅の世界へと誘ってくれる。

■ シラー 《歓喜に寄す》

対訳＝大宮 真琴

O Freunde, nicht diese Töne ! sondern  
lasst uns angenehmere anstimmen, und  
freudenvollere.

Freude, schöner Götterfunken,  
Tochter aus Elysium,  
Wir betreten feuertrunken,  
Himmlische, dein Heiligtum !  
Deine Zauber binden wieder,  
Was die Mode streng geteilt ;  
Alle Menschen werden Brüder,  
Wo dein sanfter Flügel weilt,

Wem der grosse Wurf gelungen,  
Eines Freundes Freund zu sein,  
Wer ein holdes Weib errungen,  
Mische seinen Jubel ein !  
Ja, wer auch nur eine Seele  
Sein nennt auf dem Erdenrund !  
Und wer's nie gekonnt, der stehle  
Weinend sich aus diesem Bund !

Freude trinken alle Wesen  
An den Brüsten der Natur ;  
Alle Guten, alle Bösen  
Folgen ihrer Rosenspur.  
Küsse gab sie uns und Reben,  
Einen Freund, geprüft im Tod ;  
Wollust ward dem Wurm gegeben,  
Und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen fliegen  
Durch des Himmels prächt'gen Plan,  
Laufet, Brüder, eure Bahn,  
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

Seid umschlungen, Millionen !  
Diesen Kuss der ganzen Welt !  
Brüder ! über'm Sternenzelt  
Muss ein lieber Vater wohnen.  
Ihr stürzt nieder, Millionen ?  
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?  
Such' ihn überm Sternenzelt !  
Über Sternen muss er wohnen.

バリトン独唱

おお、友よ、この調べではなく、  
さらに快い、さらに喜びに満ちた調べを  
ともに歌おう！

バリトン独唱・合唱

歓びよ、神々のうるわしい輝きよ！  
楽園の娘らよ！  
われらみな、感動に酔い、  
天の高みの神殿に踏み入ろう！  
この世に厳しく引き離された者らを、  
神秘なる御身の力は、再び結び合わせる。  
御身の優しい翼の憩うところ、  
すべての者らは、同朋（はらから）となる。

四重唱・合唱

大いなる天の賜物をうけた者らよ、  
真空の友情を勝ち得た者らよ、  
女の優しい愛を得た者らよ、  
歓びの歌を、ともに歌え！  
しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも  
地上の友と呼べる者を持つことができるならば！  
だが、それさえ持つことのできなかつた者は、  
涙しつつ、足音をしのばせ、立ち去るがよい！

四重唱・合唱

すべてこの世に在るものら、  
自然の胸から歓びを飲み、  
すべての善人も、すべての悪人も、  
喜びの薔薇の小径を行く。  
歓びは、われらに、口づけと葡萄酒と、  
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、  
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、  
天使ケルビムは、神の御前立つ。

テノール独唱・男声合唱

歓びよ、歓びよ、神の太陽たちが、  
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、  
同朋（はらから）よ、おのれの道をすすめ、  
歓びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

合 唱

たがいに手を取り合おう、億万の人々よ！  
この口づけを、全世界にあたえよう！  
同朋（はらから）よ、星のかなたには、  
愛する一人の御父が住み給うのだ。  
ひれ伏して祈るか？億万の人々よ。  
創り主を心に感ずるか？世界の民よ。  
星空のかなたに、王をさがし求めよう！  
星たちのうえに、主は住み給うのだ！

交響曲第9番二短調作品125「合唱付き」

ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に九番目の交響曲に書手した。

1793年、ポンのフィッツェニヒは、シラー夫人の手紙で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしょう…」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボンにいたときから、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。このことで、今までベートーヴェンの頭の中に、うかんだり、消えたりしていた合唱付きの交響曲の構想が、いっきよに実現することになった。そして1823年から24年にかけて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じつに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における技法と精神の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大な精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもので、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や大規模な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月7日夜、ウィーンのケルトナート劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、この曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。ベートーヴェンは正指揮者のウムラウフの隣りにあって、実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉大な感銘を与え、各楽章の終わりには万雷の如き拍手が起った。特に終曲が終わったとき、成功は決定的となった。満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。しかし、耳の間こえないベートーヴェンは聴衆を背にしてボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウンガーがかれの袖をひいて聴衆の方を向けたの

で、かれは初めてこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたという。聴衆はこの劇的な悲愴な光景に感激し、さらに拍手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、警官があわてて聴衆を制したという。

【第一楽章】 Allegro ma non troppo, un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空ら度（第三音がない）の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モチーフが生起する。このモチーフが圧縮され、第1主題が澎湃（ほうはい）として沸き起こる巨大な魂のごとく蕭然（しょうぜん）たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題を経験したことがなかったのである。

第2主題は第1主題と異なって、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気持をもち、ときどき第1主題の部分まじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第1主題へ壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をさえぎる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びを勝ち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識で把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

【第二楽章】 Molto vivace

およそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを含む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、およそ考えうる限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「歓びの調べ」への橋わたしの役を果たすことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章をはじめのリズムで直ちに我々をとらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻酔へと駆りたてられるからである…」と言っている。

〔第三楽章〕 Adagio molto e cantabile

賛歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するような明るく美しい第2主題は、この両主題にもとづく由由な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中で一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななだめ方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のはげしい促しを、やわらかい憂鬱（ゆううつ）な感覚へと溶けさせていくことか、思い出がつとに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と語っている。

〔第四楽章〕 FINALE

第1呈示部=まず管打楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレシタティブでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレシタティブによって否定されていく。そしてついに、一つの歓ばしい旋律が現れる。この主題は初

めに低弦によって歌われ、くり返しながらかつ全奏に至る。

第2呈示部=この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめ。ついで合唱がそれにつづく、やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめ。そして男声合唱が、力強く歌いくわゆる。

再現部=やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組み合わせられて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ=曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかぎりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストロとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。

- |          |           |          |           |           |
|----------|-----------|----------|-----------|-----------|
| Soprano  | ○川 部 恵 子  | Alto     | ○広 重 邦 子  | 柴 田 道 子   |
| 〈ソプラノ〉   | ○吉 良 久 子  | 〈アルト〉    | ○船 越 絹 代  | ○白 石 奈 央  |
| 小 山 静 子  | ○工 藤 たみ子  | 飯 星 舞    | 前 田 喜久代   | ○杉 本 弘 子  |
| 金 田 美 子  | ○蔵 元 由美子  | 伊 佐 真理子  | 益 田 裕 子   | ○高比良 米 子  |
| 高 岡 久美子  | ○黒 木 紀 子  | ○牛 島 絹 子 | ○松 永 ぎん子  | ○田 川 珠 恵  |
| 長 友 昂 子  | 黒 瀬 美由紀   | 大内田 悦 子  | ○水 野 和 子  | ○竹 下 敬 子  |
| 畑 本 なおみ  | 小 島 淑 子   | ○川 野 田津子 | 宮 田 裕 子   | 竹 田 綾 子   |
| ○光 多 のり子 | ○佐 藤 淑 子  | 木 下 由美子  | ○村 上 美千代  | 田 中 千 勇 子 |
| 脇 島 貴 子  | ○沢 田 和 代  | 熊 木 京 子  | ○柳 田 恵 子  | 田 上 冷 子   |
| ○入 部 一 代 | 島 野 希 子   | ○澤 本 晴 美 | 吉 村 美保子   | 田 畑 寿 子   |
| ○大 谷 真理子 | ○杉 本 由美子  | ○品川 あかつき | ○愛 甲 訓 子  | ○玉 井 了 子  |
| 川 崎 洋 子  | ○高 森 さつき  | ○田 島 幾 子 | 明 石 瑠璃子   | ○田 村 直 子  |
| 河 野 洋 子  | ○武 田 尚 子  | 野 田 信 代  | ○安 部 桂 子  | ○塚 本 和 子  |
| 木 村 恭 子  | 谷 口 登紀子   | 深 水 亜希子  | ○伊 藤 律 子  | 辻 幸 子     |
| ○隈 部 文   | ○田 上 みゆき  | 山 道 きよの  | ○井 野 亮 子  | 内 藤 邦 子   |
| 出 口 和 子  | ○近 田 綾 子  | 吉 崎 英 子  | 岩 坂 美紀子   | ○中 野 俊 子  |
| 永 田 桂 子  | ○津 留 恭 子  | 荒 木 斐 子  | ○江 崎 恭 子  | 長 橋 葵     |
| 永野間 千鶴子  | 寺 澤 孝 子   | ○桂 洋 子   | ○大久保 庸 子  | ○中 山 弘 子  |
| ○橋 本 千佳代 | 長谷川 栞子    | ○北 野 美 栄 | 大 塚 喜久子   | ○橋 口 泰 子  |
| ○前 田 久美子 | ○服 部 敬 子  | 潮 崎 于工子  | ○大 塚 幸 子  | ○馬 場 美也子  |
| ○松 村 紀 子 | ○服 部 メイ子  | ○高 尾 ゆ り | ○大 堂 喜三子  | 濱 田 敏 子   |
| 村 川 敦 子  | 東 恵 子     | ○中 村 良 子 | ○岡 追 子    | ○東 真 理 子  |
| 村 里 理 英  | ○藤 田 悦 子  | ○奈 須 桂 子 | ○緒 方 満喜子  | ○樋 口 弓 子  |
| 安 田 志津子  | 前 田 真 弓   | 浜 田 由美子  | 小 田 原 純 子 | 平 井 実 子   |
| 吉 武 博 美  | ○前 田 弥 生  | 平 田 富 子  | 小 山 于 工   | 平 嶋 かずこ   |
| ○古 城 久美子 | ○松 川 千 晶  | 藤 川 美 幸  | ○小 山 智 子  | ○廣 田 節 子  |
| 中 村 えみ子  | ○松門寺 阿 古  | ○藤 本 恵 子 | ○加 茂 千枝子  | ○福 嶋 邦 子  |
| ○濱 田 洋 子 | ○宮 本 奈都美  | 南 浩 子    | ○川 上 喜久子  | ○藤 田 美代子  |
| ○春 田 香 子 | ○宮 本 はつみ  | ○村 上 早智子 | ○川 崎 節 子  | ○藤 原 美智子  |
| ○松 山 テル子 | ○毛 利 トシエ  | ○今 井 堯 子 | ○菊 池 吟 子  | ○古 田 美 枝  |
| ○村 上 実枝子 | ○矢 住 ハツノ  | 沖米田 恵 子  | ○北 原 雅 子  | ○星 崎 文 代  |
| 山 崎 はるみ  | ○山 本 美穂子  | 工 藤 敏 代  | ○木 原 美智代  | ○牧 嶋 喜代子  |
| ○吉 武 信 子 | ○◎横 田 味詠子 | 後 藤 佳 子  | ○清 川 光 乃  | 正 木 恒 子   |
| ○相 川 久仁子 | 吉 富 ちとせ   | ○佐 藤 美由紀 | ○清 原 幸 子  | ○益 田 嘉 子  |
| ○池 田 三千代 |           | ○塩 満 朋 子 | 吉 良 圭 子   | 益 田 留 美   |
| ○石 橋 美恵子 |           | 芝 原 登 美  | ○草 刈 登喜代  | ○松 尾 留美子  |
| ○稻 岡 福 子 |           | ○田 北 真 理 | ○◎久 保 久美子 | ○松 村 恵美子  |
| 岩 崎 里 美  |           | ○中 垣 紀実恵 | ○倉 岡 睦    | ○松 本 美知代  |
| ○上 村 貴 世 |           | 中 川 さ よ  | 栗 崎 肇 子   | ○肇 田 道 子  |
| ○大 溝 逸 子 |           | ○西 村 侑里子 | 古 賀 紀久子   | 宮 辺 浩 子   |
| ○岡 沢 康 子 |           | 平 野 洋 子  | ○坂 本 肇 子  | ○宮 本 裕 子  |
| ○川 田 幸 子 |           | ○平 野 玲 子 | 重 村 節 子   | 村 上 博 子   |

○は武満 徹「うた」出場者 ◎は今回出演20回目を迎える者

♪熊本県民第九の会よりお知らせ♪  
感動を共有しませんか!!

熊本県民第九の会では、合唱団員を募集します。是非若い方の参加をお待ちしております。

◇応募期間◇ 毎年6月10日より7月25日の間

- ◇応募条件◇
1. 高校生以上であること
  2. 合唱経験者であること
  3. 決められた練習日時に責任を持って出席出来る方
  4. 参加費「3000円」を結団式当日に納入できる方

◇応募用紙◇ 応募用紙は県内の主要文化施設に置かせて頂いております。

- |              |          |            |           |              |
|--------------|----------|------------|-----------|--------------|
| ・筑尾総合文化センター  | ・菊池市民会館  | ・玉名市民会館    | ・山鹿市民会館   | ・天草市民会館      |
| ・牛深市民会館      | ・宇土市民会館  | ・宇城市ウイング松橋 | ・八代厚生会館   | ・八代ハーモニーホール  |
| ・大吾カルチャーセンター | ・榎木文化ホール | ・西原文化センター  | ・嘉島文化センター | ・御船カルチャーセンター |
| ・火の君総合文化センター | ・益城文化会館  | ・大津中央公民館   |           |              |

- 《熊本市内》
- |          |           |           |
|----------|-----------|-----------|
| ・県立劇場    | ・東部市民センター | ・総合女性センター |
| ・健軍文化ホール | ・花園市民センター | ・西野楽器店    |

※期間を過ぎての申し込みは、お断りします。  
※毎年中学生を対象に公開リハーサルを行なっております。

「熊本県民第九の会」実行委員会

- |     |         |     |         |         |   |
|-----|---------|-----|---------|---------|---|
| 顧 問 | 下 田 幸 城 | 委員長 | 草 刈 秀 克 | 黒宮原     | 潔 |
|     | 本 山 洋   | 委 員 | 神 田 一 伸 | 藤 本 幸   | 弘 |
|     | 林 原 隆 治 |     | 坂 口 幸 男 | 松 岡 聡   | 二 |
|     | 草 刈 秀 士 |     | 坂 田 英津子 | 山 崎 崇 伸 |   |
|     |         |     | 田 北 洋 康 | 吉 田 雄 二 |   |

「熊本県民第九の会」合唱団

インスペクター 松岡 聡・神田一伸 CHORUS

熊本交響楽団

KUMAMOTO SYMPHONY ORCHESTRA

- |          |          |           |            |            |
|----------|----------|-----------|------------|------------|
| ○森 敬子    | ○森 二千雄   | ○高 倉 正 純  | 堀 晋 吾      | ○菊 池 建 朗   |
| ○森 扶美代   | 矢 嶋 辰 也  | ○柘 植 治 人  | 松 下 承 生    | ○菊 池 忠 孝   |
| 森 幸子     | ○愛 垣 辰 雄 | ○西 垣 洋    | 宮 本 亮 輔    | ○窪 田 隆 穂   |
| 安 田 美喜子  | ○奥 村 敏 之 | ○開 賢 一    | 村 川 修 一    | 幸 田 祐 一    |
| 山 内 洋 子  | ○笹 田 亮   | 藤 嶋 浩 三   | 甲 斐 琢 二    | ○小森田 浩     |
| ○山 下 富 江 | ○田 尻 重 信 | ○松 尾 眞 亨  | 木 下 隆 雄    | 後 藤 雅 章    |
|          | ○原 村 憲 司 | ○宮 本 亨    | 木 村 征 雄    | 永 田 進      |
|          | ○日 吉 勇 弼 | ○矢 上 一 英  | 熊 木 明 廣    | ②西 本 一 成   |
|          | ○村 上 忠 郎 | 山 田 弘 二   | ○橋 本 宏 志   | ○野 中 誠 二   |
|          | ○岩 崎 正 博 | ○吉 田 幹 男  | 丸 山 徹      | ○福 池 淳 一 郎 |
|          | ○上 村 哲 也 |           | 山 下 隆 生    | ○福 池 裕     |
|          | ○植 村 芳 樹 |           | 安 藤 敬 久    | ○前 川 賢 夫   |
|          | ○牛 島 昭   |           | ○木 庭 正 士   | ○松 本 津 紀 雄 |
| Tenor    | ○江 島 正 彬 | Bass      | ○中 田 淳 司   | 宮 井 昭      |
| 〈テノール〉   | ○園 城 陽 二 | 〈バス〉      | ○中 原 司 人   | ○藪 田 貴 士   |
| 梅 田 正 男  | ○木 梨 興 春 | ○河 野 義 孝  | ○春 木 悟     | 米 村 甲 矢 夫  |
| 清 野 浩 一  | ○小 塚 基 夫 | ○鎌 田 吉 豊  | ○三 浦 秀 登 士 | ○左 座 守     |
| 塚 本 哲 一  | ○坂 口 幸 男 | 田 川 八 洲 武 | 宮 本 紀 一 郎  |            |
| ○松 本 郁   | ○潮 崎 眞 一 | 藤 井 輝 彰   | ○神 田 一 伸   |            |
| 木 村 卓    | 関 栄      | 星 乃 洋 二   | 菊 川 英 臣    |            |

○は武満 徹「うた」出場者 ②は今回出演20回目を迎える者

〈コンサートミストレス〉 鶴 和 美

〈1stヴァイオリン〉

- 鬼 塚 雅 子  
佐 藤 弘 美  
汐 月 哲 夫  
黒 葛 原 契 子  
鶴 和 美  
鶴 千 春  
鳥 居 俊 彦  
原 雅 子  
馬 場 由 香  
柚 原 三 弥 子

〈2ndヴァイオリン〉

- 荒 瀬 麻 里  
岡 純 子  
香 山 し げ み  
高 木 信 雄  
田 北 洋 子  
田 中 眞 由 美  
黒 葛 原 康 子  
東 眞 知 子  
村 田 裕 子  
本 山 洋

〈ヴィオラ〉

- 安 部 和 歌 葉  
荒 木 拓 美  
池 辺 京 子  
緒 方 肇 子  
桂 敦 子  
甲 田 啓 子  
小 柳 敦 子  
辰 野 陽 子  
黒 葛 原 潔 剛  
水 田 剛

山 崎 崇 伸

- 吉 田 美 智 子  
鷺 山 肇  
鷺 山 法 雲

〈チェロ〉

- 内 賀 嶋 直 美  
槌 田 博 文  
長 尾 和 治  
永 倉 照 恵  
長 坂 輝 喜  
野 島 秀 司  
福 永 憲 包  
佛 淵 かつ よ  
佛 淵 信 夫  
本 田 義 信  
三 浦 純 子  
右 田 晴 久

〈コントラバス〉

- 桑 原 寿 哉  
古 泉 俊 彦  
国 米 稔  
後 藤 誠 司  
坂 田 英 津 子  
白 木 信 一 郎  
高 木 美 緒 子  
田 上 博 子

〈フルート〉

- 高 濱 龍 一 郎  
寺 尾 みのり  
丸 山 栄 理

〈オーボエ〉

- 内 田 裕 子  
辰 野 裕 昭  
平 尾 豊

〈クラリネット〉

- 黒 木 健 次  
畑 中 亮 二  
前 野 美 千 代  
笠 千 帆

〈ファゴット〉

- 小 田 穂 積  
黒 田 孔 太 郎  
田 村 聡 司  
宮 瀬 眞 由 美

〈ホルン〉

- 和 泉 祥 江 子  
奥 羽 朋 子  
齋 藤 恵 之 学 子  
坂 口 禎 子  
野 村 梢

〈トランペット〉

- 上 村 佳 朗  
永 廣 正 治

〈トロンボーン〉

- 梅 田 雄 介  
佐 藤 奈 々 絵  
安 永 沙 織

〈ティンパニ〉

- 福 島 好

〈パーカッション〉

- 金 坂 義 徳  
白 尾 友 宏  
山 中 美 雪



合唱団の練習風景



祝 辞

25周年によせて

熊本県民第九の会  
第2代実行委員長

下田 宰城



「熊本県民第九の会」の第25回演奏会開催を心からお慶び申し上げます。

昭和57年12月、県民待望の県立劇場落成に伴い、当時全国でも数少ないコンサート専用ホールの誕生に、県内で活動する音楽関係者で記念演奏会を開催しようと、熊本県合唱連盟と熊本交響楽団でベートーヴェン第九交響曲の演奏会を企画したのが始まりでした。

指揮者に故山田一雄先生をお迎えし、ソリストも全て県出身者で、県民手作りの熱気溢れる演奏会となりました。落成記念事業として取り上げて戴いたため、諸経費は全て県立劇場で予算計上され、実行委員は準備に全力を注ぐことが出来、壮大なフィナーレを迎えたとき、長い間の苦勞も一瞬に吹き飛んだ感動を覚えています。とき12月28日、県立劇場落成の祝賀演奏会として、将に昭和57年の締め括りの演奏会でした。

それより、故有馬俊一先生を「県民第九の会」実行委員長として、コンサートホール年末の演奏会として定着して来ました。

有馬初代委員長の後を継ぎ私も頑張っては来ましたが、退職後の住居移転などの諸事情で、第14回をもって引退させて頂きました。

この四半世紀の永い間「第九」の灯火を消さず、熊本の芸術文化の、一年の締め括りとして続いてきたのも、出演者方々のご努力と、年間通しての企画実践に取り組みされている実行委員の大変なご苦勞の賜物と敬服しています。

25年の間には様々なことがありました。

第5回演奏会は、指揮者に故石丸寛先生が決まり、ポスター等も印刷が終り、練習も最終段階にかかったとき、突然辞退され大慌てしましたが、急遽荒谷俊治先生が指揮台に立ってくださり、感謝の念は今も忘れません。

昭和63年第7回では、開催を待つばかりの師走、昭和天皇ご重篤により、最悪の場合は歌舞音曲の自粛報道で、開催可能か不可能か本当に心配しました。

いつも温かく素晴らしい音を引き出してくださった指揮者安永武一郎先生、毎回ソリストとして支えてくださった木村宏子先生も故人となられ、また実行委員として基礎を築かれた有馬俊一先生、大島俊治先生、藤枝昭俊先生、そして文化協会副会長としてご尽力頂いた沖津正巳先生方も故人となられましたが、きっと県民第九の発展を見守ってくださっていると思います。

合唱団、オーケストラ共に、25回連続出場の方々を始めとする多くの芸術音楽を愛する人々によって、これからも熊本の誇る年末の演奏会として続くでしょう。

楽聖ベートーヴェンが、30数年の歳月をかけて完成させた第九交響曲を、単なる年末恒例のイベントとしてではなく、毎年聴きに來てくださる皆様方に、毎回新たな感動を与えることが出来る演奏会でありますよう、心より願っています。

本日の演奏会のご成功と益々のご発展をお祈り申し上げます。

第1回 昭和57年12月28日(火) 前座曲：越天楽(雅楽)(近衛秀麿編曲)



指揮/山田 一雄



独唱/新 圭子



木村 宏子



伊豆野 修



高橋 修一

第2回 昭和58年12月11日(日) 前座曲：楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/大友 直人



独唱/高見久美子



岡 ますみ



大野 光彦



柴田 啓介

第3回 昭和59年12月27日(木) 前座曲：弦楽のためのアダージョ 作品11(バーバー作曲)



指揮/山岡 重信



独唱/中沢 桂



木村 宏子



板橋 勝



池田 直樹

第4回 昭和60年12月25日(木) 前座曲：序曲「レオノーレ」第3番 八長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/万代イェック・ワタル



独唱/三縄みどり



妻鳥 純子



伊達 英二



中村 邦男

第5回 昭和61年12月27日(火) 前座曲：トッカータとフーガ 二短調(バッハ作曲/ストコフスキー編曲)



指揮/荒谷 俊治



独唱/津下美奈子



木村 宏子



鈴木 寛一



芳野 康夫

第6回 昭和62年12月26日(土) 前座曲：「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/中沢 桂



木村 宏子



近藤 伸政



栗林 義信

第7回 昭和63年12月25日(日) 前座曲：序曲「コリアン」八短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/三縄みどり



木村 宏子



鈴木 寛一



平野 忠彦

第8回 平成元年12月24日(日) 前座曲：「プロメテウスの創造物」序曲 作品43(ベートーヴェン作曲)



指揮/小松 一彦



独唱/秋山恵美子



木村 宏子



成田 勝美



高橋 啓三

第9回 平成2年12月23日(日) 前座曲:「ロザムンデ」序曲 作品26(シューベルト作曲)



指揮/棚山 和明



独唱/山田 綾子



木村 宏子



大野 徹也



福島 明也

第10回 平成3年12月23日(月) 前座曲:「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/西森 由美



木村 宏子



田中 誠



宮原 昭吾

第11回 平成5年12月23日(木) 前座曲:楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/荒谷 俊治



独唱/河添 富士子



春日 成子



小林 彰英



栗林 義信

第12回 平成6年12月25日(日) 前座曲:「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/岩永 圭子



妻鳥 純子



石場 知昭



勝部 太

第13回 平成7年12月24日(日) 前座曲:モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」K.618(モーツァルト作曲)



指揮/金 洪才



独唱/西森 由美



妻鳥 純子



大島 博



大島 幾雄

第14回 平成8年12月23日(月) 前座曲:カンタータ第147番より「主よ、人の望みの喜びよ」BWV147(J.S.バッハ作曲)



指揮/本名 徹二



独唱/河添富士子



妻鳥 純子



大間知 覚



瀬戸口 浩

第15回 平成9年12月21日(日) ※序曲「コリオラン」ハ短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/志岐由理子



妻鳥 純子



牧川 修一



小川 裕二

第16回 平成10年12月20日(日) 前座曲:序曲「レオノーレ」第3番 八長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



岩森 美里



井ノ上 了史



瀬戸口 浩

第17回 平成11年12月19日(日) 前座曲:「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/レオ・クレーマー



独唱/水野 貴子



青山 智英子



持木 弘



松本 進

第18回 平成12年12月23日(土) 前座曲:歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/河添富士子



妻鳥 純子



大間知 覚



大島 幾雄

第19回 平成13年12月23日(日) 前座曲:歌劇「魔弾の射手」序曲(ウェーバー作曲)



指揮/田代 詞生



独唱/佐々木典子



青山 智英子



井ノ上 了史



松本 進

第20回 平成14年12月22日(日) 前座曲:なし



指揮/松尾 葉子



独唱/三縄みどり



杉野 麻美



米澤 傑



瀬戸口 浩

第21回 平成15年12月21日(日) 前座曲:喜歌劇「こもり」序曲(J.シュトラウス作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



大林 智子



米澤 傑



松本 進

第22回 平成16年12月26日(日) 前座曲:「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/大山平一郎



独唱/安藤赴美子



一色 礼子



五十嵐 修



木村 俊光

第23回 平成17年12月25日(日) 前座曲:序曲「コリオラン」ハ短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/田代 詞生



独唱/三縄みどり



妻鳥 純子



大間知 覚



佐久間 伸一

第24回 平成18年12月24日(日) 前座曲:歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b(ベートーヴェン作曲)



指揮/山田 和樹



独唱/西森 由美



岩森 美里



井ノ上 了史



小川 裕二

熊本県民第九の会 第25回記念  
第49回 熊本県芸術文化祭参加

# ベートーヴェン

# 第九



## 曲目

武満 徹

混声合唱のためのうたⅢより

さくら-島へ-死んだ男の残したものは

ベートーヴェン

交響曲第九番(Dmoll Op.125)合唱付き

指定席(1階7列~25列、R1、L1) 4,000円 当日4,500円

自由席(1階1~6列、1階26~32列、2~3階) 3,000円 当日3,500円

学生券(高校生以下) 1,500円 当日2,000円

## 公開リハーサルのお知らせ

熊本県民第九の会では、例年通り中学生の皆さんを対象に公開リハーサルを行います。鑑賞ご希望の学校は、熊本県民第九の会にお問い合わせ下さい。

リハーサル開始 14:00  
終了 16:30

指揮 山田 和樹

ソプラノ 佐々木典子

アルト 加納 里美

テノール 井ノ上了吏

バリトン 佐野 正一

合唱 熊本県民第九の会合唱団

管弦楽 熊本交響楽団

## 12/23(日)午後6時15分開演 熊本県立劇場コンサートホール

■主催/熊本県民第九の会・熊本県文化協会 ■助成/(財)熊本県立劇場  
後援/NHK熊本放送局・熊本日日新聞社・RKK・エフエム熊本・FM791

■入場券は、10月28日より下記プレイガイドで発売します。

(熊本交通センター・西野楽器・熊日プレイガイド・熊本県立劇場)

■公演終了約20分後、交通センター経由熊本駅行きの臨時路線バスが出ますのでご利用下さい。

■有料駐車場が混雑する場合がございますので、なるべく公共交通機関をご利用下さい。

■お問い合わせ先/熊本県民第九の会事務局 ☎096(345)7285



指揮者

## 指揮 山田 和樹

1979年、神奈川県秦野市生まれ。

幼少の頃より木下式音楽教育を受ける。神奈川県立希望ヶ丘高校吹奏楽部にて学生指揮者を務める。

2001年3月、東京芸術大学音楽学部指揮科卒業。安宅賞受賞。指揮法を小林研一郎、松尾葉子の両氏に師事。

2002年7月には、ザルツブルグ・モーツァルテウム・サマーアカデミーに参加、ゲルハルト・マルクソン氏に指導を受ける。

これまでに、オーケストラでは、ブルガリアVARNAフィル、名古屋フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、セントラル愛知交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、瀬戸フィルハーモニー交響楽団(ミュージックアドヴァイザー)、東京交響楽団メンバーによる室内合奏団をはじめ、横浜市立大学管弦楽団、千葉県少年少女オーケストラなど全国約50団体以上のアマチュアオーケストラの指揮指導にも力を注いでいる。

今後、2007年8月、12月に神奈川フィルハーモニー管弦楽団、12月に東京交響楽団、12月にオーケストラ・アンサンブル金沢、2008年2月に委嘱作品初演を含む東京混声合唱団定期演奏会での指揮が予定されている。



ソプラノ



アルト



テノール



バリトン

## ソプラノ 佐々木 典子

武蔵野音楽大学卒業後、ザルツブルグモーツァルテウム音楽大学オペラ科を首席で修了。1984年ウィーン国立歌劇場オペラ研修所に所属、'86年同歌劇場にソリストとして本契約。ウィーンはじめ欧州各地の劇場でオペラその他コンサートにも出演。'86、'89年ウィーン国立歌劇場日本公演、'87、'88年ザルツブルグ音楽祭「モーゼとアロン」。'89年「エレクトラ」、'92年「影のない女」、'89年日本公演ガラコンサート(アバド指揮)に出演。日本に居を移してからは、2000年二期会「魔笛」パミーナをはじめ、'01年「こうもり」ロザリンデ、'02年「フィガロの結婚」伯爵夫人('06年の再演にも出演)、「ニルンベルクのマイスタージンガー」エーファ、'03年「ばらの騎士」元帥夫人等、主役には不可欠な存在として、その地位を確立。最近では'04年二期会・新国共催「鳴神」雲の絶間姫、「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・エルヴィーラ、'05年「椿姫」ヴィオレッタなどで絶賛を博している。本年2月には日本初演となる東京二期会「ダフネ」に主演。2008年、2月びわ湖ホール、ならびに3月神奈川県民ホール、「ばらの騎士」元帥夫人で出演予定。卓抜した音楽性と表現力は、世界的巨匠をはじめとする共演者からも常に尊敬の対象とされている。'90年熊本市女性賞を授与。'00年第2回ホテルオーケストラ音楽賞受賞。二期会会員。東京芸術大学准教授。

## アルト 加納 里美

東京音楽大学卒業。同研究生オペラコース修了。成田絵智子、故・福沢アクリヴィ、故・滝沢三重子の諸氏に師事。1986年、文化庁芸術家国内研修員。関西日仏音楽コンクール第1位入賞。同年、文化放送音楽賞受賞。第4回日仏音楽コンクール第2位入賞。第57回日本音楽コンクール声楽部門第3位入賞(1位なし)。86年、二期会公演「ワルキューレ」のシュヴェルトライテでオペラデビュー。同役は96年の大野和士指揮および2001年の飯森泰次郎指揮による公演でも演じ、高い評価を得た。以後「椿姫」のアンニーナ、「魔笛」の侍女、「ヘンゼルとグレーテル」の魔女、「アイダ」(演奏会形式)の女王アムネリス等に出演。表情豊かな張りのある声で好評を博した。97年東フィルオペラコンチエルタンテシリーズ、大野和士指揮「ピーター・グライムズ」、「イエヌーファ」に出演。新国立劇場へは99年以降、『罪と罰』『イル・トロヴァトーレ』『ヘンゼルとグレーテル』『シャーロックホームズの事件簿』『ねじの回転』『外套』などに出演。2005年8月には、日本初演日生劇場オペラ『アラジンと魔法のランプ』に出演。また、ベートーベン「第九」、マーラー交響曲第2番「復活」、第8番「千人の交響曲」、ヴェルディ「レクイエム」などのソリストとして出演。現在、東京音楽大学准教授、二期会会員。

## テノール 井ノ上 了吏

国立音楽大学卒業。  
東京文化会館推薦オーディション合格。  
日伊コンコロソ入賞  
イタリア音楽コンコロソ金賞、2年連続でテノール大賞受賞。  
日本声楽コンクール入賞、東京国際コンクール入賞及び海外留学助成金を受ける。

91年よりイタリアへ留学、アリーゴ=ポーラ、ジャチント=ブランデッリ、ジュディタ=パリス、エウジェニオ=フルッコティの各氏の下で研鑽を積み傍らイタリア各地でコンサートにも多数出演、パドヴァ国際コンクール、バヴィア国際コンクール等に入賞。

95年に帰国後は、二期会公演「ドン・ジョヴァンニ」のドン・オッターヴィオ、「コシ・ファン・トゥッテ」のフェランド、「真夏の夜の夢」のライサンダー、「ファルスタッフ」のフェントン、二期会創立50周年記念公演「こうもり」のアルフレードなどテノールの重要な役柄で常に活躍好評を博す、2003年9月には「蝶々夫人」ピンカートン役にて主役としての存在感のある美声と演技で聴衆を魅了した。

新国立劇場主催オペラ鑑賞教室で「トスカ」のカヴァラドッシ、新国立劇場公演「サロメ」「アラベラ」「忠臣蔵」に出演、2004年には「俊寛」「サロメ」「マクベス」に出演し好評を博す。

東京音楽大学客員助教授、平成音楽大学客員助教授、国立音楽大学非常勤講師、二期会オペラスタジオ講師、二期会会員、日本演奏連盟会員。

## バリトン 佐野 正一

東京芸術大学声楽科を卒業。卒業時、宮中の桃華楽堂において御前演奏を行う。同大学院修了。在学中、芸大定期ヘンデル『メサイア』、ブラームス『ドイツレクイエム』及び、台東区主催ベートーヴェン『第九』のソリストを務める。昭和63年度東京文化会館推薦音楽会声楽部門に合格。同演奏会及び新宿文化センター主催『フレッシュコンサート』に出演する。第27回日伊声楽コンコロソ第2位入賞。第7回日仏声楽コンクール第2位入賞。第57回及び第59回日本音楽コンクール入賞。第4回奏楽堂日本歌曲コンクール奨励賞受賞。オペラにおいては、小澤征爾指揮によるオペラ塾公演『フィガロの結婚』(演奏会形式)のフィガロ、宮本亜門演出『コズィ・ファン・トゥッテ』のグリエルモ、黛敏郎作曲『金閣寺』(日本初演)の鶴川、ゲルギエフ指揮による日フィル定期『サロメ』、琵琶湖ホールでの『ドン・カルロ』、フォーレ唯一のオペラ『ベネローブ』(日本初演)、日生40周年記念『ルル』など、話題になったオペラにも出演。1996年~2000年の間に5回、ニューヨークのカーネギーホール、2002年2003年2月には、ウィーンの楽友協会、その後、プラハのスメタナホール、コブレンツ、ドレスデン、ブタペストのリスト音楽ホールにて『第九』のソリストとして出演した。また、暮れのフォーシーズンズホテルでのディナーコンサートは8年目を迎えている。NHK土曜リサイタル及び名曲リサイタル出演。現在、尚美学園大学、聖徳大学非常勤講師、日伊音楽協会、日本フォーレ協会、日本演奏連盟、日本声楽アカデミー、東京グレース会、二期会会員。